

第9回公正入札調査会議 議事概要

[日 時] 平成26年9月30日(火) 10:30-12:00

[場 所] 中央合同庁舎第3号館 4階幹部会議室

[出席委員] 和泉澤座長、大橋委員、金本委員、郷原委員、長瀧委員、奈良委員、堀田委員、升田委員

[委員の主な意見]

- 組織として世の中の環境変化に適切に対応していくことが必要。公共工事の執行に関し重要だとされていることは昔から変わらずあると思うが、一方で最近では透明性や競争性の確保の重要性も高まっていることについて、組織のトップがしっかりとした方向性を示すことが求められている。
- 官製談合は絶対にあってはならないが、適切な工事の施工を確保する観点からすれば、発注者と受注者間でのコミュニケーションは必要。
- 最近では災害が増えており、建設業者の協力を仰がねばならない場面も増えている一方で、事務所の職員は建設業者との接触が官製談合の疑いを持たれないようにするため日々苦心している。組織としてこのような事実をしっかりと受け止めるべき。
- 発注者である国交省が入札データの分析を継続的に行うことは入札参加者に「見られている」と認識させることとなり、談合を抑止させる効果として、非常に大きな意味があるのではないか。
- 入札の競争性を高めるため、入札データの分析内容や講じた対策等の情報を地方整備局管内で共有すべき。

以 上